令和3年度　地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和5年2月28日

関東運輸局

評価対象事業名：　離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
東京都離島航路地域協議会	神新汽船株式会社	神津島～下田航路	事故なく安定した運航が実施できた。	荒天による欠航以外は、計画通り運航でき、事業は適切に実施できた。運航回数：計画316.0回➡実績239.0回(計画比 75.6%)	・旅客輸送人員：計画人員9,200.0 人⇒実績 4,105.5人（計画比44.6%） ・自動車輸送台数：計画台数730台⇒実績429台(計画比58.8%) ・長引くコロナ禍の影響により、目標を大きく下回った。	長引くコロナ禍においても、可能な限りの感染予防対策を講じ、安心で安定した運航の継続と旅客、自動車輸送数の拡大に努め、航路運営のサービス改善・収支改善を図る。	航路運営については、荒天による欠航を除き計画通り運航されたが、輸送人員及び航走台数については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、感染防止対策を講じつつ安心で安定した運航の継続と旅客、自動車航走数の拡大に努め、自動車航走数をはじめとする輸送量の増加及び収支改善を期待する。 また、伊豆諸島・小笠原航路全体としての、観光振興なども視野に入れたサービス向上や、島民の生活の質の向上に資する施策の取り組みを検討されたい。	
東京都離島航路地域協議会	東海汽船株式会社	東京～八丈島航路	令和2年6月に「新さるびあ丸」が就航し、快適な船旅の提供 を目指したが、昨年に引き続 き、新型コロナウイルス感染症 の影響を受け、旅客輸送人員 は全体を通して昨年同時期と 比較し、2,185人の減少となった。東京～三宅島間は2,003人 減、東京～御蔵島間が295人 増、東京～八丈島間が141.5人 増であった。全体として前期比 2,185人減(3.7%減)の旅客輸送 人員となった。	安全運航に努め、航路事業を適切に実施した。運航回数は計画数365.0回に対し、悪天候等による欠航数が17.5回あり、就航回数347.5回(計画比95.2%)となった。なお5.6,11月は欠航数0回で あった。	旅客輸送人員は計画105.406.0人⇒実績 56,143.5人(計画比53.3%)となり新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けた。旅客輸送人員が計画より大幅に減少したことにより旅客運賃収入も計画比56.9%となった。 一方、貨物輸送量は計画44,109トン⇒実績48,840トンとなり、計画比110.7%の増加と堅調に推移した。	前回に引き続き、新さるびあ丸の就航に伴う、快適性の向上（利用客数の増加)や、船の燃費向上・修繕費の減少等により省力化と経費削減をはかる。またGoToトラベル事業をはじ め、国や都道府県の観光施策に対し、積極的に参画するとともに、お客様に安心で快適な船旅を提供できるよう、新型コロナウイルス感染症対策にも万 全を期す。	航路運営については、荒天による欠航を除き計画通り運航されたが、輸送人員については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、船内のバリアフリー化や客室の快適性向上、船の燃費効率改善や修繕費の減少等により省力化と経費削減を期待する。 また、ポストコロナ時代における国等の観光政策を導入した取り組みを検討されたい。	

東京都離島航路地域協議会	伊豆諸島開発株式会社	八丈島～青ヶ島航路	運航ダイヤの改善及び利用客 の利便性向上を図りつつ就航 率の向上を図った。	荒天の影響による欠航以外は計画通り運航し、事業は適切に実施された。(運航実績137.0回/運航計画238.0回、就航率57.6%)	旅客輸送人員は、計画人員2,854.5人に対して実績は1,298.5人(計画比45.5%) となった。	新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を講じた上で、島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航を確保するとともに、航路運営収支の改善を図っていく。 また、R4年1月竣工の新船により、大型化・高速化・快適性の向上・バリアフリーの充実等の効果を見込んでいる。	航路運営については、荒天等による欠航を除き計画通り運航されたが、輸送人員については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、海象条件が厳しい航路であるが、新造船「くろしお丸」の就航により、島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航の継続と航路運営収支の改善を期待する。 また、伊豆諸島・小笠原航路全体としての、観光振興なども視野に入れたサービス向上や、島民生活の質の向上に資する施策への取り組みを検討されたい。	
東京都離島航路地域協議会	伊豆諸島開発株式会社	父島～母島航路	運航ダイヤの改善及び利用客 の利便性向上を図った。	荒天の影響による欠航や新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、概ね計画通り運航し、事業は適切に実施された。(運航実緝264.0回/運航計画283.0回、就航率93.3%)	旅客輸送人員は、計画人員22,354.5人に対して実績は16,447.5人(計画比73.6%) となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅な人員減少となった。	新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を講じた上で、島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航を確保するとともに、航路運営収支の改善を図っていく。 また、R4年1月竣工の新船により、ドック期間中の代替船の大型化・高速化・快適性の向上・バリアフリーの充実等の効果を見込んでいる。	航路運営については、荒天による欠航と減便を除き計画通り運航されたが、輸送人員については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、島民及び観光客の利便性を考慮した適切かつ安定した運航の継続を期待する。 また、伊豆諸島・小笠原航路全体としての、観光振興なども視野に入れたサービス向上や、島民生活の質の向上に資する施策への取り組みを検討されたい。	
東京都離島航路地域協議会	小笠原海運株式会社	東京～父島航路	新型コロナウイルス感染症の影 響を受ける中、輸送人員の回 復や経費節減に努めた。	今期も新型コロナウイルス感染症の影響があったが、航海数は計画数62.0回に対して計画通りの62.0回運航し、事業は適切に実施した。	新型コロナウイルス感染症の影響により、旅客輸送人員が、計画人員57,320.0人に対して、36,881.0人(計画比64.3%)と大幅に減少した。	新型コロナウィルス感染症の影響が大きく、終息しない限り大幅な改善が難しいものの、引き続き航路の魅力を伝え輸送人員の回復に務めつつ、経費節減をし、収支改善を目指す。	航路運営については、新型コロナウイルス感染症の影響により輸送人員が目標より下回った。 来年度は、Withコロナ、Afterコロナを見据えて、船・航路の魅力をPRして輸送人員の回復に努め、収支の改善を図る取り組みを検討されたい。	

令和4年度　地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和5年2月28日

関東運輸局

評価対象事業名：　離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
東京都離島航路地域協議会	神新汽船株式会社	神津島～下田航路	事故なく安定した運航が実施　できた。	荒天による欠航以外は、計画通り運航でき、事業は適切に実施できた。 運航回数：計画315.0回➡実績251.0回（計画比79.7%）	・旅客輸送人員：計画人員9,100.0人⇒実績6,241.5人（計画比68.6%） ・自動車輸送台数：計画台数 700台⇒実績 562台（計画比80.3%） ・新型コロナウイルス感染症の影響等から回復傾向となるが、目標を大きく下回った。	引き続きコロナ禍に於いても、可能な限りの感染予防対策を講じ、安心で安定した運航の継続と旅客、自動車輸送数の拡大に努め、航路運営のサービス改善・収支改善を図る。	航路運営については、荒天による欠航を除き計画通り運航されたが、輸送人員及び航走台数については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、⑥に記載されたとおり感染防止対策を講じつつ安心で安定した運航の継続と旅客、自動車航走数の拡大に努め、自動車航走数をはじめとする輸送量の増加及び収支改善を期待する。 また、伊豆諸島・小笠原航路全体としての、観光振興なども視野に入れたサービス向上や、島民の生活の質の向上に資する施策の取り組みを検討されたい。	
東京都離島航路地域協議会	東海汽船株式会社	東京～八丈島航路	新型コロナウイルス感染症による影響から一定程度の回復傾向がみられた。旅客輸送人員は全体を通して昨年同時期と比較し、17,139人の増加（30.5%増）となった。東京～三宅島間は9,703人増、東京～御蔵島間が2,518人増、東京～八丈島間が5,426人増であった。	安全運航に努め、航路事業を適切に実施した。運航回数は計画数365.0回に対し、悪天候等による欠航数が17.5回あり、就航回数347.5回（計画比95.2%）前期同数となった。なお1,5,6月は欠航数0回であった。	旅客輸送人員は73,282.5人となり、計画104,777.0人に対し、計画比69.9%となった。新型コロナウイルス感染症からの回復傾向がみられたが、旅客輸送人員が計画より減少したことにより、旅客運賃収入は計画比79.4%となった。 一方、貨物輸送量は51,478トンとなり、計画43,212トンに対し、計画比119.1%と堅調に推移した。	船内のバリアフリー化や客室の快適性向上をはかるとともに、船の燃費効率改善や修繕費の減少等により省力化と経費削減をはかる。 また国や都道府県の観光施策に積極的に参画するとともに、島嶼地域をポストコロナの時代に安心・快適に余暇を過ごすことのできる魅力的なコンテンツとしてPRし、旅客輸送人員の拡大をはかる。	航路運営については、荒天による欠航を除き計画通り運航されたが、輸送人員については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、⑥に記載されたとおり、船内のバリアフリー化や客室の快適性向上、船の燃費効率改善や修繕費の減少等により省力化と経費削減を期待する。 また、ポストコロナ時代における国等の観光政策を導入した取り組みを検討されたい。	

東京都離島航路地域協議会	伊豆諸島開発株式会社	八丈島～青ヶ島航路	新造船就航により通年で同じダイヤおよび旅客定員で運航可能となった。	荒天の影響以外に三宝港旧桟橋接触事故により4航海欠航した。（運航実績141.0回／運航計画238.0回、 就航率59.2%）	新型コロナウイルス感染症等の影響により、旅客輸送人員は、計画人員2,997.0人に対して実績は1,701.0人（計画比56.8%） となった。	新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を講じた上で、島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航を確保するとともに、航路運営収支の改善を図っていく。	航路運営については、荒天等による欠航を除き計画通り運航されたが、輸送人員については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、海象条件が厳しい航路であるが、新造船「くろしお丸」の就航により、島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航の継続と航路運営収支の改善を期待する。 また、伊豆諸島・小笠原航路全体としての、観光振興なども視野に入れたサービス向上や、島民生活の質の向上に資する施策への取り組みを検討されたい。	
東京都離島航路地域協議会	伊豆諸島開発株式会社	父島～母島航路	新造船就航により通年で同じダイヤおよび旅客定員で運航可能となった。	荒天による欠航の影響を受けたものの、概ね計画通り運航し、事業は適切に実施された。（運航実績262.0回／運航計画283.0回、 就航率92.6%）	新型コロナウイルス感染症等の影響により、旅客輸送人員は、計画人員22,354.5人に対して実績は19,343.0人（計画比86.5%） となった。	新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を講じた上で、島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航を確保するとともに、航路運営収支の改善を図っていく。	航路運営については、荒天による欠航と減便を除き計画通り運航されたが、輸送人員については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、⑥に記載されたとおり、島民及び観光客の利便性を考慮した適切かつ安定した運航の継続を期待する。 また、伊豆諸島・小笠原航路全体としての、観光振興なども視野に入れたサービス向上や、島民生活の質の向上に資する施策への取り組みを検討されたい。	
東京都離島航路地域協議会	小笠原海運株式会社	東京～父島航路	新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、輸送人員は回復の兆しが見えてきた。	運航回数については、小笠原村と調整をした結果計画数61.0回に対して62.5回となったが、事業は適切に実施した。	今期の輸送人員は47,061人と計画輸送人員(57,200人)に対して約10,000人減少(82.3%)した。徐々に回復してきているが、目標達成とは至らなかった。	Withコロナ、Afterコロナを見据えて、旅行商品の開発や船・航路の魅力を伝え輸送人員の回復に努める。	航路運営については、新型コロナウイルス感染症の影響により輸送人員が目標より下回った。 来年度は、⑥に記載されたとおりWithコロナ、Afterコロナを見据えて、船・航路の魅力をPRして輸送人員の回復に努め、収支の改善を図る取り組みを検討されたい。	